

★校内研だより★

2024.6.17 文責 ○○○

【各ブロックのめざす児童像】

わかば	低学年ブロック	中学年ブロック	高学年ブロック
自らえらんで学ぶ児童	自分の思いに向けて、 自分の考えをもち、 友だちと関わろうとする 児童	対話を通してかかわり、 判断したり、調整したり する児童	自分の考えを表現して 学びを深めようとする 児童

【全体会の授業者と日程】

9 月中～下旬	11 月 19 日（火） ○○先生来校	12 月上旬 指導主事来校（予定）
○○（低ブロ）	○○（中ブロ）	○○（高ブロ）

＊ブロック研の授業日程が決まりましたら、ブロック長が推進委員長と研究主任に知らせてください。

【第2回校内研究全体会：3年2組（細川先生）国語「まいごのかぎ」研究協議のまとめ】

☆グループ協議

成果	課題
・ 学びに向かう姿勢 ・ 「学びへの思い」がよく見られた ・ 手だて（準備）がされていた。 ・ 一言感想からよい雰囲気で学びがつながる ・ 一言感想が友だちの“知りたい”につながった	・ 問いづくりにつながる板書 ・ 「学びへの思い」へつなげる教師の関わりが重要 ・ 児童から出る考えの共有化、相違を生かし、視点をもって問いづくりを ・ 問いづくりと一言感想のつながり（貫く課題づくり）

☆全体協議（次につなげたいこと）

- ・ 一言感想（子どもの思い）が全員分一覧で見られる手立てが、“知りたい”“聴きたい”という主体的な姿、他者との関わりにつながる。
- ・ 問いづくりでは、子どもの一言感想の理由から、「問い」に子どもの思考がつながるような手立て（板書）がより必要となるのではないか。
- ・ 子どもの反応の予想し、幅広く授業を構想すること。

☆指導助言者（○○先生）より

- ・ 心優しい穏やかな子どもたち。対話成立のためのベースをもっている。これまで培ってきたものに乗せてもらい、何を引き出してあげるか。
- ・ 教師の意識改革を。教室環境、座席配置、教師の机の配置など見直し、教師中心の教授型からどう脱していくか考えていくことが大事。
- ・ つまらなくならないようにどうすればいいかな、と考える。→子どもの中に生まれているワクワクドキドキの中から展開が見えてくる。子どもの姿（教師がのぞまない姿も）を考えて計画を立てるが、授業後、その都度見直し、修正する。年間1単元挑戦を！！

【次回の授業に向けての確認】

- ・ 指導案について
単元計画、本時案では、児童の多様な反応を予想し、記入する。（のぞまない姿も予想しておく）
- ・ 座席表について
抽出児の記述内容については、A：前時の具体的な子どもの姿 B：本時での期待する姿 C：そのための手立ての3点セットとする。
- ・ 授業アンケートについて
7月上旬に授業アンケートを実施します。